

# 【参考】特別の教科 道徳 授業構想上のポイント(R2事務所様式使用)

2年1組	教科	特別の教科 道徳	指導者	〇〇 〇〇
主題名	働くことの意味と大切さ		時	1/全1時間
教材名	そうじの神様が教えてくれたこと 出典：日本文教出版 あすを生きる2			
ねらい	主人公が気づいた働くことの意味や大切さについて様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して、勤労を通じて社会に貢献しようとする心情を育てる。			
評価	【評価の着眼点】 勤労の意義について、(義務)(役割)(誇り)等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか。			
	【内容項目】	C-(13)勤労	【評価方法】	ワークシート記述
困難さの状況への配慮	抽象的な言葉に対する自分の考えをまとめることが苦手な生徒には、「仕事とは〇〇のためにやる」といった文型を提示することにより、仕事に対する自分の考えをもち伝えることができるようにする。			
学習活動	1 職業は何を優先して選ぶのかを話し合いめあてをつかむ。 ・アンケート結果を提示し、本時のねらいに対する問題意識を持たせたとこでめあてを位置づける。 【めあて】職業で大切なことは何だろう			
	2 教材文を読んで話し合う。 ・教師が教材文を読み聞かせる。 ・「与えられたことをやるしかないんだ」と言った主人公の思いを想像させ、主人公がはじめは自分の夢(幸福追求)を求めてテーマパークで働いていることに気づかせる。 ・チェックさんの姿を見た後の主人公の気づきに着目させ、仕事に対する主人公の見方が変化したことを押さえたところで中心発問を位置づける。 【中心発問(課題)】「仕事とは、自分の都合のためにやるものではないことを教えられた」と言っている主人公はどんなことに気づいたか ・自分の感じ方等とつなげて自分の考えをWSにまとめる。【自己決定】 ・考えをペアで交流させ、発表させる。【自己存在感】【共感的人間関係】 ・「ゲストのため」という意見が多くなるのが予想されるので、「ゲストのために何をやるのか?」と問い、考えを広げていく。 ・誰かのためや社会のために働くことは結果として自分の喜び(幸福追求)につながることに気づかせる。 【まとめ(整理)】(「働く」には幸福追求や社会貢献の要素もあることを整理)			
	3 めあてに立ち返らせて自身を振り返る。 ・板書に整理した内容をもとに、「仕事をする上で大切なことはどんなことだと思うか」の視点でWSにまとめさせる。【自己決定】 【振り返り】 ・収入もやりがいも大切だと思う。でもやりがいがあった方が楽しいと思う。 ・目の前の仕事を頑張ることが誰かに喜びにもつながる。そのつながりを考えて仕事をしていくことが大切。			
	4 教師の話を聞く。 ・教師の職業観を語り生徒の職業観を広げていけるようにする。			

○主題名:どのような道徳的価値をねらいとし、教材をどのように活用するのかのまとまりを表す  
○教材名:教材名と出典を示す

○ねらいの構成~3つの構造を一文で表す  
・学習の中心的内容(~について、~を)  
・学習活動(~活動を通して)  
・道徳性の諸様相(~な心情を育てる、~な判断力を高める、~な態度を育てる等)

○評価の着眼点  
!道徳性が育ったかどうかを評価するのではない  
!道徳性につながる学習状況が見られたかどうかを把握する  
→ねらいの「学習活動」(~活動を通して)を評価の着眼点として設定

○めあて  
学習の見通しをもたせ、意欲を高めるものになるよう導入を工夫して設定

○中心発問(課題)  
ねらいに直結した発問として設定。中心発問を支える前後の発問(基本発問)や基本発問や中心発問を補ったり深めたりする発問(補助発問)とあわせて構成していくと授業の骨子となる。

○まとめ(整理)について  
・話し合ったり、考えたりしたことを、自覚できるように整理する  
・基本的には道徳科では、複数の考えを一つの考えに教師が集約するような「まとめ」はしない。(自然な流れで集約される場合も考えらる)

○ふりかえり  
評価の着眼点をもとに期待したい生徒の反応を置くと授業のゴールがより明確になります。

☆整合性がとれた上で中身を吟味し、真に生徒を育てる授業構想へとブラッシュアップしていく。  
☆作成した指導案は、授業構想力を高めていくツールとして役立てることができる。